

保健師

ルポ

無垢の自然と独特の文化が息づく
日本最後の秘境

新型コロナワクチン予防接種の取り組みにおける課題



新型コロナワクチン接種班(筆者前から2列目の右端)

住民に寄り添う支援を 「やさしく あたたかく 心をこめて」

十島村 住民課保険係村民室長 本砥 貴子



唯一の交通手段である村営の「フェリー」として2]

十島村は、屋久島と奄美大島の間に位置し、トカラ列島と呼ばれます。北から口之島、中之島、諏訪之瀬島、平島、悪石島、小宝島、宝島の有人7島と、臥蛇島、小臥蛇島、小島、上ノ根島、横当島の無人5島のあわせて12の島々で構成されています。南北約160 kmに及ぶ人が居住している地域としては「日本一長い村」です。

鹿児島港を深夜に出港する「フェリー」として2「1・953t」が唯一の交通手段です。鹿児島市から最も近い口之島までは204 kmあり、片道約6時間、最も遠い宝島で334 km、片道約13時間程度かかります。洋上に浮かぶ島々は「日本最後の秘境」とも呼ばれ、無垢の自然と独特の文化が今もなお息づいています。

村では、早期に新型コロナワクチン予防接種をすることで重症化を予防し、集団免疫を上げることで感染拡大防止に努めたいという基本方針のもと、早くから取り組みを進めてきました。しかしながら、今までに経験したことのないワクチン接種。取り組みをすすめていく中で、様々な課題がありました。

課題の1つ目としては、医療従事者の確保があげられました。村の医療施設は、各島に診療所が1か所ずつ、看護師が1〜2名常駐しています。急患が発生した場合はヘリ搬送と、医療資源にも限りがある状況です。

医療従事者の確保については、日頃から巡回診療や看護師の人材確保等で連携している関係機関に相談いたしました。鹿児島赤十字病院、鹿児島県立大島病院、鹿児島県看護協会、ナースセンター等、関係機関に協力をいただき人材を確保することができ、より安心・安全な接種体制を整えることにつながりました。

課題の2つ目としては、ワクチンの有効活用。十島村には、7つの有人島があります。交通手段は村営のフェリーとしま2のみ。どのようにしてワクチンを

搬送・保管するのか、どうしたら有効活用できるのかが大きな課題でした。そこで、村では超低温冷凍庫を船内に設置し、溶解してからの移送にかかる時間を短縮できるようにしました。また、島の順路を変更する、予防接種の時間にあわせて船を動かしてもらう等、特別航海便を組むことで、全島、接種できるよう計画することができました。また、厚生労働省より、「高齢者の人口が概ね500人程度未満の離島や高齢者の人口が概ね500人未満の市町村は接種順位にかかわらず高齢者以外の対象の接種を行うこと」が認められた通知があり、村では16歳以上の住民に対し「一斉接種」というかたちで実施しました。一斉接種を行うことで、早期に多くの住民のみなさんに接種することができました。

たと思います。

課題の3つ目としては、予防接種時の体制・運営をどのようにしていくかでした。保健師が中心となり体制を整えました。ICTを活用し、医師、診療所看護師、保健師間できめ細やかな連絡調整、意見交換会を何度も行うことで、住民への周知方法、副反応の対応、物品、会場の配置等、予防接種体制を構築していきました。共通理解を重ねるプロセスが重要であり、平常時からのつながりがあるからこそできたことだった

ソーシャルディスタンスを促すリーフレット



各関係機関や住民の協力のもとスムーズに終わったワクチン接種

経験や想いを共有し 今後につなげたい

小・中学校の体育館を活用し、全島統一したレイアウトにしたり、7島同じ物品を準備する等、みんなでアイデアを出し合いながら平準的に取り組むことができました。

小さな村役場ですが、航路に関すること、医療に関すること、接種券事務や誘導係等、全庁的に取り組めたことも良かったと思います。フェリーでの巡回のため、出発当日に順路変更する等、天候にも左右されましたが、それぞれの専門性を活かし、臨機応変に対応することができました。

また、事前に中之島で行ったシミレーションには、たくさんの方々が参加してくれました。

シミレーションで得た経験や可視化した情報を各島で共有することができた事も重要だったと思います。会場設営や、住民の送迎など、消防団をはじめたくさんの方々の協力をいただきました。そのことが、スムーズな運営ができた大きな要素だったといえます。

十島村では、4月、5月末に実施したワクチン接種で、16歳以上の住民の約9割に2回の接種を終えることができました。様々な課題が他にもたくさんありましたが、お互いの特徴や強みを活かし、その都度、対応し取り組みをすすめた結果、得られた成果だと感じています。課題や不利性を抱えながら、それを乗り越えていくプロセス、そういう経験や想いこそ共有し、次へとつなげていく必要があると感じています。

日々変わるコロナ感染の状況に対し、

その時々での迅速な判断が求められています。住民のことを知っている、地域のことを知っている保健師だからこそ公衆衛生看護の担い手として住民に寄り添う支援ができると感じています。

十島村の看護理念は「やさしく あたたかく 心をこめて」です。これからも住民のみなさんに寄り添い、やさしくあたたかく 心をこめた支援ができるよう努めていきたいと思っています。



全島統一のレイアウトにすることで効率化が図られた

